

PY セミナー / スキル・セミナー

PY セミナーは、「社会貢献」という大きなテーマのもとで、参加青年が自分の経験や専門知識を共有するもの。またスキル・セミナーは、「船上での活動や事後活動に活かせるスキル」の共有と習得を目的としたものです。いずれも参加青年によって企画・運営され、実践的なワークショップやディスカッションを通して互いに刺激し合い、学びを深めます。

例 PY セミナー

犯罪者を受け入れますか？
世界の恋愛事情と性問題
卒業から就職までのギャップ
2014年ガザ地区の戦争の経験
ワークライフバランスとタイムマネジメント
起業形態を通して世界へ発信するアフリカの姿
Edible Yard で食糧問題を考えよう

例

スキルセミナー

人間中心デザイン
呼吸の芸術
プロジェクトの計画の仕方
どうやって私たちは感染症を防ぐか
国連モデル 1 分間スピーチ
How to be an analytical tourist in Singapore
モチベーション：ポジティブになるには？

参加青年の「情熱」に心を動かされた

山波 亜早子

私がPYセミナーをおもしろいと感じたのは、参加青年が自分のできる方法で社会をより良くしようとする「情熱」を感じることができた点です。幸せ、仕事、恋愛、国、音楽…とジャンルは様々で、私が今までまったく目を向けていなかった分野から問題を改善しようとしている人がたくさんいました。参加青年たちが情熱をかけて取り組んでいることだから、私も大切にしたい…。そのような思いから、これまで他人事のように思っていた世界の食糧問題や女性に対する考え方などが、自分事として捉えられるようになりました。自分はどのような方法で社会をよくしていけるのか？を改めて問うきっかけになりました。

PY

参加した



「Many Types of Traveling」

塚本 拓也

スキル・セミナー？そう聞いたとき、自分には何かスキルと呼べるものがあるのか疑問に思いました。しかし船の中で参加青年と話すうちに、意外と内向きな参加青年も多く、自分が世界を旅してきた経験はユニークかもしれないと考えるようになりました。旅の経験を伝えることでもっと外の世界を見てほしいという思いから、旅好きな日本参加青年4人で「Many Types of Traveling」というスキル・セミナーを企画しました。自身の海外・国内旅行の経験から、旅先での出会いや学び、旅の計画の立て方などを伝えました。慣れない英語でのプレゼンテーション・ファシリテーションでしたが、参加者から「人生を豊かにするために旅に出たくなった！」という温かい感想をもらい、人の気持ちを変えられたかもしれないとうれしくなりましたし、自信にもなりました。

スキル
企画した



「SWY Career Forum - diversity of work style -」

大穂 正孝

多様な職業・バックグラウンドの参加青年をゲストスピーカーに迎え、キャリアをテーマにしたスキル・セミナーを企画しました。きっかけは、私自身が自分の将来のキャリア設計を見つめ直したかったことです。同じ関心を持つ日本参加青年とともに準備を進め、起業家や国連職員、編集者、フリーのライターといった多様なスタイルで働く5人のゲストスピーカーを集めました。セミナーでは、ゲストスピーカーにターニングポイントや職業観、将来のビジョンなどを語っていただきました。就職活動や就職を控えた日本参加青年も数多く参加し、日本の若者が自分のキャリアを考える貴重な機会を作ることができました。

スキル

企画した



ナショナル・プレゼンテーション

各参加国の社会や文化について紹介する機会です。2つのパートに分かれており、1部では、各国の地理や歴史、文化や社会課題について、プレゼンテーション形式で発表。2部では、ダンスや音楽、伝統芸能の披露など、パフォーマンスによって文化を伝えます。陸上研修で1部を、船上研修で2部を行いました。



「だれとどのように作り上げるか」に意味がある

由井 拓帆

日本のナショナル・プレゼンテーション（NP）のテーマは「シン・日本」で、日本舞踊や盆踊りなどの伝統的な文化と、アイドルグループの歌や踊り、ヲタ芸（アイドルのコンサートやイベントなどで熱烈なファンが行う独特のパフォーマンス）などのサブカルチャーを対比させる内容でした。私はヲタ芸の一員で、ケミカルライトを使ったパフォーマンスを新しい形の日本文化として披露しました。異色なテーマであるため周囲からネガティブな反応があったり、ヲタ芸パートのメンバーが多すぎて練習が難航したりと、順風満帆ではありませんでした。しかし、「オタ芸伝道師」である日本参加青年を中心に、地域別・レベル別

に集まって笑いの絶えない楽しい練習を行うことで、総勢31名のメンバーが一丸となり自発的に取り組むようになりました。

本番では会場を最も沸かせた瞬間のひとつだったと、胸を張って言えます。NP後も、ヲタ芸を通して生まれた絆が、ヲタ芸のプロモーションビデオ制作といった自主活動にもつながりました。

NPでヲタ芸に挑戦したことは、「何」を選ぶかより、「だれとどのように」作り上げるかに大きな意味があることを学んだ、最高の経験でした。



多くの学びと達成感が得られたソーラン節

宗 夏希

私は日本のナショナル・プレゼンテーション（NP）で、外国参加青年に日本とは何か、日本人が持つ価値観や文化的魅力はどのようなものかを伝えたいと思い、日本参加青年が披露する演目の中からソーラン節（南中ソーラン）を選びました。ソーラン節は小中学校で何度も踊ったことがあり、どのように踊ればよいのか、どこに気を付けるべきかが感覚としてわかっていました。最初は、他のメンバーの完成度にかかわらず、自分だけがしっかり踊ればよい、とにかく自分だけは最高のパフォーマンスをしよう、と思っていたのですが…。公式の練習時間はもちろん、自由時間にも何度も練習や話し合いを重ねるうちに、NPを成功させ、日本人の持つ協調性を表すためには、みんなで目標に向かって心をひとつにすることが必要だと気づかされました。しかし、みんなでひとつの大きなものを作ろうと自分の中で決意してからは、度々人と衝突することになりました。自分の理想をみんなに伝えることは、

ときに士気の向上につながりましたが、多くの場合は自分の気持ちを押し付けてしまうこととなり、そのせいでメンバーを傷つけてしまうようなこともあったと思います。何度も迷い、何が正しい選択なのかわからなくなりましたが、その度に仲間たちが声をかけてくれ、一緒に練習を重ねることで、私は迷いを吹っ切ることができました。

そしてNP（2部）当日。日本のパフォーマンスは全11カ国の最後で、その中でもソーラン節はトリでした。すでに他の10カ国と日本のソーラン節以外のチームは、趣向を凝らし、各国の魅力を伝えるすばらしいパフォーマンスを披露してくれていました。そんな彼らへの敬意と、何度もぶつかり合った末に作り上げたソーラン節への思いを込めて、全力で踊りました。

NPを通して、バラバラの状態からひとつのものを作り上げることの難しさを学びましたが、それ以上に、人が助けてくれる安心感、みんなで意見を出しながら少しずつ共通の形を作っていく高揚感、そして、自分とみんなを信じて完成させたという達成感や満足感をおおいに得ることができました。

Voluntary Activity

平和教育ワークショップ

大里 みずき

私は3人の友人とともに平和教育のワークショップの開催に挑戦しました。それは、文化背景の違う各国の青年たちと「平和」と「教育」という世界共通のテーマについて議論したいという熱い思いからでした。

自分の専門分野ではないトピックについて、一大学生が社会人や国籍の違う人たちを相手にファシリテーターをするという、無謀にも思える挑戦に立ち向かうことで、今までにない自分の成長を感じることができました。知識と経験がなくても、がむしゃらに取り組んでいたからこそ周囲の協力を得ることができ、無事にワークショップをやりきることができました。最初はできるはずがないと思っていたのに、終わってみると「あーすればもっと良かったのに」という次元で話ができるようになっていました。

私にとってこの自主活動は、船の中で最も多くの学びと喜びと喜びを感じたものであり、それはやり方に制限のない自主活動だからこそだと確信しています。



「美容師」としての学び

山波 亜早子

私は本事業に社会人として参加しました。参加前は、美容師としての自分の仕事に自信が持ち切れず、「自分にとっての『美』とは何だろうか?」という疑問を常に抱えていたのですが、船の上でカットやメイクをすることにより、参加青年を笑顔にし、落ち込んだ気持ちを前に一歩進む力に変えることができました。美容師としての自分の技術が

役立ったことで、人の心を変化させることができる「美容の力」を実感し、この仕事を選択したことを誇りに思いました。

下船後は、以前よりも楽しく、自信を持って美容に携わることができています。今後も、美容を通して、多くの人を勇気づける仕事をしていけたらと思っています。



「LGBT*」について

本田 ひかり

●LGBT レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル。トランスジェンダーの頭文字をとった言葉

私はLGBTに関する自主活動を行いました。きっかけは、LGBT関係の本やブログを読むなどして、LGBTやジェンダーに興味を持ったからです。LINEで協力者を呼びかけたところ仲間が2人集まってくれ、2017年10月頃からスカイプで連絡を取り合いながらどのような会にするか話し合いました。その結果、前半30分はLGBTの概要や日本における有名なレズビアンカップルの事例を紹介し、後半30分は参加者の意見を自由に発信するフリートークにすることにしました。

イベント当日は30人以上の人々が集まり、自分たちの国の事情や体験談を発信してくれ、大いに盛り上がりました。最初は、英語でLGBTの説明ができるかどうか不安でしたが、終了後は活動をやってよかったという達成感でいっぱいでした。一緒に活動した仲間2人や参加者のみなさんにはほんとうに感謝しています。